

環境

No.296

特集 容器包装リサイクル法と
岡山県内の取り組み

エコアップ自然隊レポート
始まっています、環境アクション!
岡山県の「こどもエコクラブ」。

シリーズ**20世紀**をふりかえって

平成12年度事業計画
岡山の昆虫
自然調査のススメ
INFORMATION

出かけよう! 楽しもう! 岡山の自然を歩いてみよう!

ふいーるど通信



さあ、まぶしい新緑の季節です。外へ出かけてみませんか。植物や動物を見つけてその名前を覚えると、友達になったような親近感を覚えます。小さい図鑑をポケットに入れて、観察しながら歩いてみるのもいいものです。私たちの生活と身近な里山には、いろいろな生き物が営みを続けています。心のアンテナを敏感にすれば、いろいろな生き物と友達になることができます。今回は、県北の里山「津黒いきものふれあいの里」を訪ねてみました。



ネイチャーセンターささゆり館

「ネイチャーセンターささゆり館」では、この里で見ることのできる植物が写真と解説文で分かりやすく紹介されています。「ささゆり館」の前には、津黒川の流れを利用して造られた「津黒川河川公園」があります。

清流の中で遊ぶ楽しみ、津黒川河川公園。

これは、環境庁と岡山県、中和村が協力して整備した、岡山県で初めての、いきものふれあいの里です。広さ16haのこの里山には、雑木林や湿地、小川や溪流など中国山地の豊かな自然があり、その中でさまざまな生き物たちとふれあうことができます。



米子自動車道湯原ICから約20分、岡山県の最北端、標高1,118mの津黒山の山裾に広がる津黒高原に、平成11年7月にオープンした「津黒高原いきものふれあいの里」。こ

中和村

津黒いきものふれあいの里

お問い合わせ
岡山県真庭郡中和村下和1077
ネイチャーセンターささゆり館
☎08671677011



自然解説版

この里山の動物や植物たちが語りかけてくるように解説されているので、興味を持ちながらどんどん進んで行くことができます。尾根沿いに「テンの道」を歩いていくと休憩所があり、里山が見渡せる眺めのよい場所に出ます。心地よい風に吹かれ、ひと休みしたら、谷

ここには、28カ所に自然解説板が設置されています。その地点の地図やその周辺に生息する動物について、植物について、

あるがままの自然を楽しむ「いきものふれあいの里」。

河川公園を横切り、里山の方へと入っていきます。「津黒いきものふれあいの里」の最大の特長は、河川公園以外には、ほとんど自然に手を加えていないことにあります。そのままの自然を楽しむためだけに道が通されています。「里山の道」を歩いていくと、いろいろな鳥の鳴き声があちこちから聞こえてきます。5月〜6月頃には日本3鳴鳥の「オオルリ」を見かけることができます。大きな声で鳴き、青いきれいな色が目立つので初心者でも見つけられるそうです。



「山のお花畑」を通り、「山の牧場」に出ると、広い芝生が広がっており、寝ころんだり、走り回ったりできます。水車小屋のそばには、「いきもの情報掲示板」があり、自分が発見した動植物の情報を書き込んで掲示したり、ほかの人の情報を見ることもできます。「津黒いきものふれあいの里」は、

湿原や谷川、雑木林には、貴重な動植物がいっぱい。

整備された木道を歩き、さらに「クワガタの森」、「オオサンショウウオの谷川」、「カケス姫の森」へと行ってみます。この周辺には、ムカシトビやカシラなど生息しているそのほか、



全体を約2時間で一周することができます。自分の目的や体調に応じていろいろなコースを歩くことができます。すぐそばには「国民宿舎津黒高原荘」と「津黒高原温泉キャンプ場」があります。これからの季節、里山の自然の中でのんびりといろんな生き物とふれあってみませんか。

循環型社会の構築と地球の未来のために！
みんなの力で「ごみ」をふたたび「資源」に！！

容器包装 リサイクル法 と 岡山県内の 取り組み

増加するごみを再び資源へ！
容器包装リサイクル法とは

わが国では、年間5,110万トン(平成8年度)ものごみが家庭から排出されています。そのうち、食料品や日用品などの「容器包装廃棄物」が容積比で約60%、重量比で約25%の割合を占めています。また、最終処分場である埋立処分場の容量にも限りがあります。こうした背景のもと、容器包装廃棄物の減量と再生資源の利用を図るにより、生活環境の保全に寄与することを目的に、平成7年に「容器包装リサイクル法」が制定されました。平成9年の本格施行では、ガラス製容器、PETボトルが再商品化の対象となり、そして平成12年4月の完全施行では、プラスチック製容器包装と紙製容器包装が対象となりました。

「容器包装リサイクル法」のねらいは、すべての人に明確な役割を担ってもらうことで、効率のよいリサイクル・システムを創り出すことにあります。消費者は「分別排出」、市町村は「分別収集」、特定事業者は「再商品化」の義務を負うことになり、とくに今回の完全施行では大企業だけでなく中小企業規模の事業者も、「特定事業者」としてリサイクルの義務を負うことになりました。

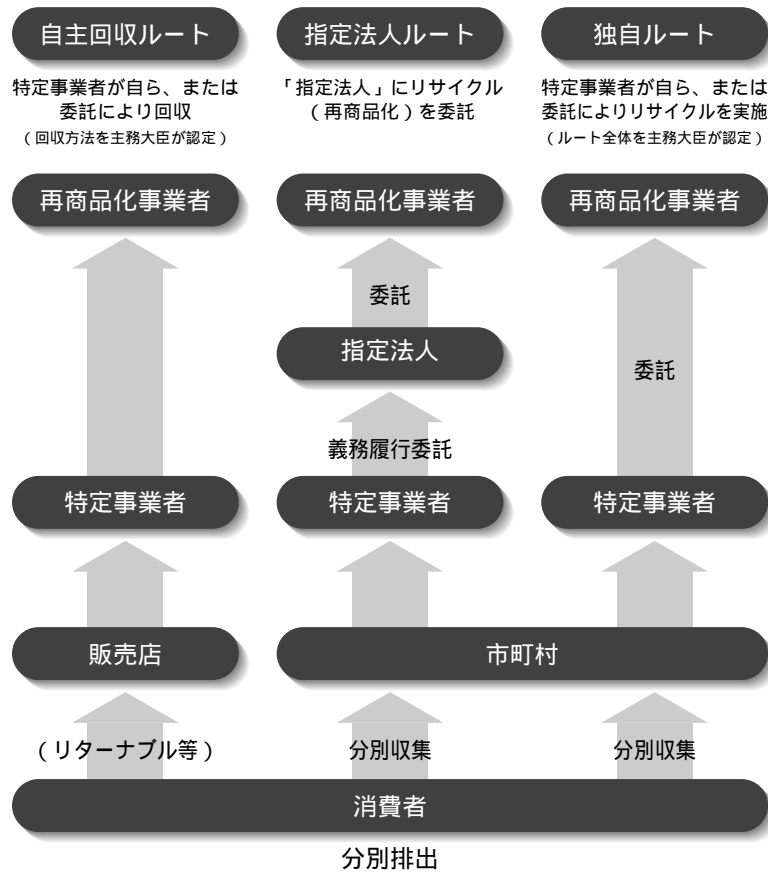
ごみ減量とリサイクル推進！
岡山県の取り組みと現状

その次にリサイクルがきます。ごみゼロ社会をめざし、生産・流通・消費・処理といったそれぞれの段階でごみの発生を抑え、再資源化といったリサイクルを中心とする循環型社会の構築を行っていかねばなりません。岡山県では『ごみゼロ社会プロジェクト推進会議』を設け、その促進を図る事業を行っていきます。と展望を述べられました。

「容器包装リサイクル法」は、厚生省、通産省、環境庁、大蔵省、農林水産省の4省1庁にわたる連携・協力のもとに実施されているそうです。社会全体で多岐にわたる連携のもとに成り立っている法律であること認識をせられると同時に、「リサイクル」がこれからの社会にとって重要な意味を持つものであることを伺い知ることができました。

「容器包装リサイクル法」では、市町村が分

リサイクル(再商品化)3つのルート



1 法律で定められている容器包装廃棄物とは商品の容器と包装のことで、商品を使ったあとに不要となるもののことです。

2 特定事業者とは容器を利用して中身を販売する事業者
容器を製造する事業者
包装を利用して中身を販売する事業者
のいずれかに該当し、事業規模が以下の事業者
製造業の場合
売上高2億4,000万円超または従業員21名以上である。
卸・小売・サービス業の場合
売上高7,000万円超または従業員6名以上である。



官公庁の部署名、担当者の役職名は、平成12年3月現在のものです。

総社市では、昭和48年に設立された総社広域環境施設組合(総社市・真備町・清音村・山手村で構成)により、ごみの共同処理が行われてきました。平成9年には、ごみ焼却施設と粗大ごみ施設を併設した「吉備路クリーンセンター」が建設され、4市町村で資源循環型社会をめざしたごみ処理が行われています。総社市の平成10年度のごみ排出量は1万6,663t、

別収集・保管の役割を担います。第1期計画では岡山県下78市町村のうち、53市町村で分別収集計画が策定され、平成12年4月から始まっている第2期では、78の全市町村が収集計画を策定しています。この計画に基づき、積極的に取り組みを行っている市町村の中から、総社市、岡山市、倉敷市の取り組みをご紹介します。

総社市の取り組み

容器包装リサイクル法と市町村の取り組みをレポート

1人1日当たりのごみの量は804gとなっています。総社市役所を訪ね、総社市民生部環境課の久保課長と、角野正明課長補佐にお話を伺いました。

「総社市では、平成9年の新施設完成に伴い、3種から5種分別回収を開始しました。資源ごみでは、缶・びん・古紙・PETボトルの分別回収が行われています。平成12年度からは、その他のプラスチックの食品トレイ(白色)の分別収集を全域で始めます。新しい施設には広いストックヤードとカレットヤードが備えられており、資源ごみはリサイクル品として保管した後、業者に引き取られます。そのほか、廃品回収も引き続き行い、空き缶回収機(市内5カ所6台設置)による回収も行っています。空き缶2缶で補助券1枚と交換でき、補助券500枚で500円の図書券1枚と交換しています。平成10年度には290万缶の回収がありました。」とのこと。真備町にある「吉備路クリーンセンター」のそばには、焼却施設の余熱を利用したプールや運動広場を備えた多目的広場「交流館」があり、地域の方々の憩いの場となっています。

岡山県のごみ処理の推移

区分	年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
総人口 (人)		1,955,289	1,957,650	1,960,958
ごみ総排出量 (t/年)		682,775	698,545	688,741
自家処理量 (t/年)		32,064	31,955	22,323
計画処理量	焼却処理 (t/年)	519,139	534,069	536,056
	埋立処理 (t/年)	97,869	94,645	85,018
	コンポスト(t/年)	1,727	1,269	0
	資源化 (t/年)	31,976	36,607	45,344
	その他 (t/年)	0	0	0
計 (t/年)		650,711	666,590	666,418

出典：岡山県環境白書 平成11年版

ごみゼロ社会をめざして！
みんなが担うリサイクルの輪

また、生口主幹は「環境への負荷が少ない」ということでは、優先順位ではリユースが一番で、

「この件につきましては、平成12年2月に厚生省から連絡があり、「PETボトルリサイクル推進協議会」による工場の新増設などにより、11年度の保管分も合わせ、12年度中には再商品化能力が確保できる見通しがついているとのこと。」とわれ、現在PETボトルの再商品化能力を拡充するために、国と指定法人「(財)日本容器包装リサイクル協会」が施設の増設・新設の促進などを行っているとのことでした。

平成12年4月1日より、「容器包装リサイクル法」が完全施行となりました。増え続ける容器包装ごみを減量化・再資源化するために、平成7年に制定され、平成9年には本格施行、そして平成12年からは対象範囲を広げて完全施行と段階を経て実施されています。これから資源循環型の未来社会を築いていくうえで重要な役割を担う「容器包装リサイクル」について改めて知るとともに、岡山県内ではどのような取り組みが行われているのか取材してみました。



(* 正式名称：容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律)

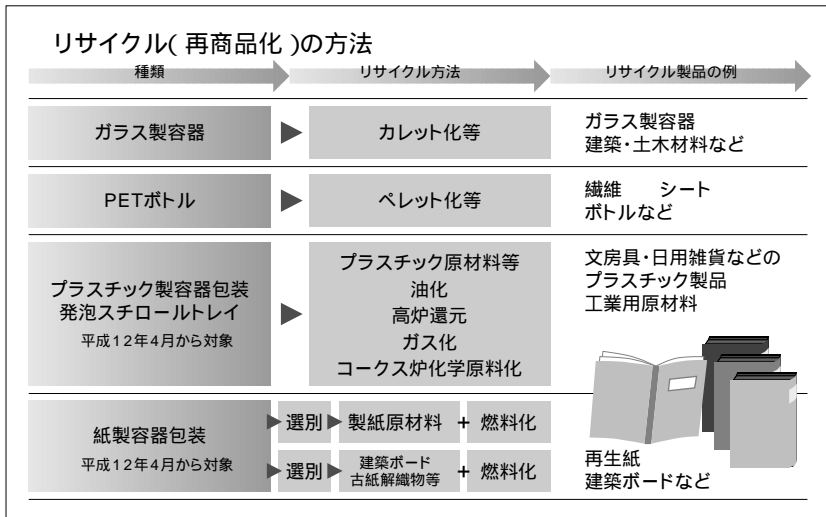


倉敷市の資源ごみ収集風景。缶、金属類(18ℓ以下の缶)、びん、ガラス類はコンテナごと分別。8分目ほど入ったら、色別札を付け替え、新しいコンテナを重ねていく。



古紙類は、新聞、段ボール、牛乳パック、雑誌類に分別。折り込み広告、菓子箱等は雑誌といっしょに出す。

そのほか倉敷市では、平成25年をみすえた「ごみ処理基本計画」を策定。市民と事業者と行政が協力しあって、総合的なごみ対策をすすめる。



倉敷市では、平成4年3月から、5種分別収集を始め、平成11年7月には市内全域で実施されています。資源ごみは、缶・びん・古紙(新聞紙・雑誌・ダンボール・牛乳パック等)・古布が集められています。5種分別の拡大や事業ごみの有料化等により、平成10年度には16万3,473t、1日1人当たりの排出量は1,034gと前年より減少傾向にあります。

倉敷市の取り組み

「倉敷市では、『容器包装リサイクル法』の理念とは何なのかを考え、本当に資源化が適正にできて、コストが少なく、税金からのコストも少なくできる方法はないかという点で取り組みを行っています。また、リサイクルルートの中でたまっている処理の問題や、再利用されたものはコストが高くて売れないといった状況がこれからどう解決されるのか注目しています。そしてさらに、メーカーや流通業者の努力がどう行われるのかということも注視しています。この2つが今後の流れを変えていくのだと考えています。」と、理念としての「リサイクル」の考え方は絶対が必要ですが、一方でコスト面や環境影響への課題も解決されなければならぬと言われます。また、物を買った人、すぐ捨てさせない物づくりも重要であると言われています。

「容器包装リサイクル法」が完全スタートしましたが、岡山県内の市町村では、それぞれの処理施設や埋立処分場などの状況に応じて、さまざまな取り組みが行われていました。しかし、紙製品のリサイクル識別マークの統一など国のレベルでの課題やコスト面での問題など、まだまだ解決していかなければならないこともあります。大量生産、大量消費、大量廃棄といったライフスタイルを見直し、廃棄物のない循環型社会をめざすことは、産業や社会全体に大きな変革が求められることかもしれません。持続可能な未来へ、「容器包装リサイクル法」は、私たち一人ひとりがみんなで考え、行動を起こす第一歩となることは確かでしょう。

サーマルリサイクル
プラスチックの持つ熱エネルギーを蒸気や電気のようないのちに変えてエネルギーとして有効利用するもの。ごみ発電やプラスチックを多く含む廃棄物の固形燃料(RDF)等が代表的な例です。

マテリアルリサイクル
そのまま、もしくは形を変え、プラスチックとして再利用するもの。PETボトルを再利用して作った衣服や、PETボトルを加工して作った梱包用クッションが代表的な例です。



岡山市東部クリーンセンターリサイクルプラザ(仮称)完成予想図

岡山市の取り組み

岡山市では、急激なごみ量の増加や、焼却施設の老朽化による処理能力低下、埋立地確保の困難性などから、平成3年に「ごみ非常事態宣言」を発令。地域が一体となってごみの減量化に取り組んだ結果、平成8年には非常事態を解除することができました。しかし、平成8年度以降、ごみは増加傾向にあり、平成10年度の年間排出量は約23万700t、市民1人1日当たりの排出量は1,015gとなっています。

岡山市環境事業局業務部「ごみ減量課の中山勝課長補佐とリサイクル推進係の野口享司主任にお話を伺いました。」

「岡山市では、平成4年から5種分別収集を開始、平成7年度には全市でPETボトルを除く5種分別収集を行ってきました。PETボトルについては、平成9年度から資源化ステーションと店舗との併用で収集を始め、小学校区2/3のステーションで実施しており、12年度中には全市に広げる予定です。店舗回収は、現在市内60店舗で回収しています。その他の紙については、識別が難しいため、市民の方々にどういったお願いをすればいいのか検討中です。国の方でも統一した識別マークを作るといった動きもあるようですが、そのようなものでもなければ、今、紙だけでも4種分別しているのに、これ以上市民の方々の分別を複雑にするのはどうかと取り組み方を考えているところですよ。」

また、中山課長は「資源化リサイクルは、細かくすればするほどコストがかかります。行政がどこまで関わるかというのは、市町村の規模や人口、地域性のほか、焼却施設や埋立処理の能力にも関係してきます。規模が大きければ収集コストがかかりますし、処理施設がどこにあるかもコストが違ってきます。岡山市には、プラスチックが燃やせる新しい焼却炉と燃やせ



選別されたPETボトルは、ベルトコンベアーで減容機に運ばれ、圧縮・梱包される。

高品質の再生材料を得るには、減容化されたPETボトルの品質の良いことが重要な条件。

資源選別所の二次選別をレポート

市民による一次的分別で収集した資源化物は、二次的な選別でさらに細かく13〜14種類に分けられていきます。岡山市に2カ所ある資源選別所では、知的障害者が選別作業を行っていることで、ごみ減量課の野口主任にご案内いただき、新保資源選別所を見学させていただきました。

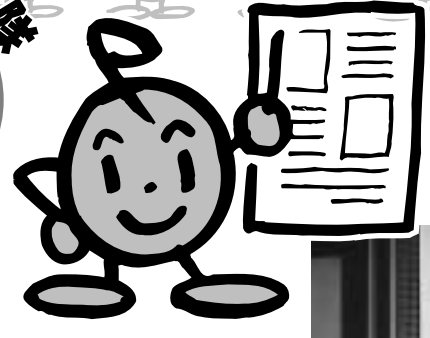


二次選別作業風景。障害者の雇用促進につながり、障害者の方々も社会に貢献できるとイキイキ働いています。

「倉敷市では、『容器包装リサイクル法』が完全スタートしましたが、岡山県内の市町村では、それぞれの処理施設や埋立処分場などの状況に応じて、さまざまな取り組みが行われていました。しかし、紙製品のリサイクル識別マークの統一など国のレベルでの課題やコスト面での問題など、まだまだ解決していかなければならないこともあります。大量生産、大量消費、大量廃棄といったライフスタイルを見直し、廃棄物のない循環型社会をめざすことは、産業や社会全体に大きな変革が求められることかもしれません。持続可能な未来へ、「容器包装リサイクル法」は、私たち一人ひとりがみんなで考え、行動を起こす第一歩となることは確かでしょう。

そのほか、新保及び西大寺に回収所を設置し、毎週日曜日に空き缶と牛乳パックの回収が行われています。空き缶1個、牛乳パック1枚につき補助券1枚と交換でき、補助券1,000枚で500円の図書券と交換できます。また、岡山市では「リユースプラザおかやま」を設置し、不用品の展示・販売などが行われています。

野口主任によると、「最近では自動販売機でも売られているので、500mlのPETボトルが増加しています。今はこの程度ですが、夏になるとこの建物いっぱいになるほど山積み量になります。資源化物をリサイクルの流れにのせるには、分別基準適合物として引き取り基準にあったものにならなくてはなりません。これは100%に近い選別が求められる厳しいものです。そこでこのような二次選別により、質の高い再生処理へと結びつけているのです。」とのことでした。ここで圧縮されたPETボトルは、指定法人ルートで運搬・再生処理されます。

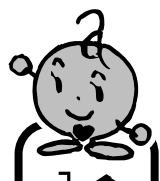


子どもたちのための環境活動 が始まっていきます。環境マタマタです。

最近、テレビなどでも時々見かけることのある「子どもエコクラブ」。
何だろうと思われている方も多いのではないのでしょうか。
そんな時、平成11年度の活動発表会が行われるとの情報をキャッチ。
さっそく、どんなクラブで、どんなことが行われているのか取材してみました。

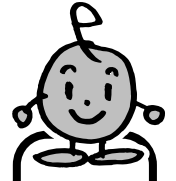
「子どもエコクラブ」Nおかやま 平成11年度活動発表会開催

さる平成12年2月26日、岡山市西川アイブ
ラザで、岡山県・岡山市・(社)岡山東法人会
の主催による「子どもエコクラブINおかやま
活動発表会」が行われました。
「子どもエコクラブ」は環境庁の呼びかけで
平成7年にスタートした環境活動で、岡山県で
は平成8年度に本格的にスタート。当初は38
クラブ537名であった会員数が、平成
11年度には115クラブ、2,103人
に増加し、県内各地でさまざまな環境活
動が行われているとのことです。



今城エコクラブ(邑久町) 「ケナフを育てよう」

邑久町の小中学生と地域のお母さんたちがサ
ボーターをしているクラブで、今年で3年目。2年
目からケナフを育て始め、花を使って染色をしたり、
茎で炭を作ったりしました。ケナフは、春に種を蒔
くと、秋には2、3mの高さに成長し、白い花を咲
かせます。黄色く染まったTシャツとガスマスクで作
ったケナフの炭を見せてくれました。



桃丘小学校(岡山市) 「平成11年度タンポポ調査」



岡山市立桃丘小学校では、
3年前から活動が始められ、
平成11年度は6年生3ク
ラス全員がクラブの会員に
なりました。岡山市が実施
している「身近な環境調
査」も兼ねて、学区のタン
ポポの調査を行ったそう
です。団地の造成で自然があ
まりなくなった所と自然が
残っている所とはタンポ
ポの種類はどの違うのか、
マップを作成して調べまし
た。2年前とずいぶん変わっ
ている場所もあり、
身近な生物で環境の変化が
分かったそうです。

そのほか、かへ新聞での活動発表のクラブも
あります。賀陽町の「きびのくにわくどきクラ
ブ」、笠岡市の「子ども劇場笠岡センターこ
もエコクラブ」、岡山市の「曾根っ子クラブ」、
そして、玉野市の「玉野市立玉原小学校5年生」
の子どもエコクラブは、校区にある「志池」を
探検し、指標生物やCOD、透明度などを調べ
た結果を報告していました。

子どもエコクラブの活動発表は、かへ新聞を
もとにした交流(かへ新聞セッション)がメイ
ンとなります。これは全国大会と同じやり方です。



うねっ子クラブ(岡山市) 「うねっ子エコ新聞」

岡山市立東晴小学校の子どもエコクラ
ブで、平成9年にスタート、平成10年か
ら本格的に活動が始められました。学校をきれ
いにするクリーン作戦や、割りばし集め、給食
の残量調査などを行ったそうです。とくに、割
りばしは3膳で1枚の紙ができるを知って、全
校で集めているそうです。



みんなそれぞれ興味のあるかへ新聞の所に行き、
手づくりの名刺を交換するなどお互いに自分の
クラブ名や名前を紹介し合った後、いろいろな
質問をして「取材ノート」にメモしていきます。
実際にケナフや川の魚などが展示されていて、
会場は取材する子供たちや大人で熱気に包まれ
ました。
その後は、岡山のしい授業サークル会員の
内田正夫さんにより、おもしろ科学実験講座「コ
ミと環境」の講演が行われました。
最後に、岡山市環境保全課の方が、「今の環
境問題は昔の環境問題と違い、私たちが加害者
であり、被害者でもあります。こうした問題に
取り組むには、まず関心を持つこと、行動に移
すことが大切です。みなさんが発表したことや
取り組んだことは、行政も大人も勇気づけられ
ます。」と、閉会のあいさつをされました。帰
りには、国際ソロプチミスト岡山から寄贈され
たケナフの種と育て方マニュアルが参加者に配ら
れました。

岡山県の子どもエコクラブ事務局は 岡山県生活環境部環境調整課

後日、岡山県生活環境部環境調整課を訪れ、
企画班の榎尾昌宏主任にお話を伺いました。
「『子どもエコクラブ』は、21世紀を担う子
どもたちが、環境を大切にしようという意識を持って、
身近なところから自主的に環境活動に取り組む
ことを応援するため、環境庁の呼びかけでスタ
ートしました。1つのクラブは、小中学生のメ
ンバーとサポーター(大人の指導者)により構
成されます。県は市町村の窓口となり、全国の
事務局に加入登録を行ったり、情報提供を行っ
たりしています。岡山県では秋に交流会と年度
末に活動発表会を行っています。」とのこと
です。活動中の安全管理については、全国の事務局に
登録すると同時に保険に加入しているため、活
動中のけがなどにも対応できるということでした。

可知自然エコクラブ(岡山市) 「紙のリユースをすすめ森を守ろう」

岡山市立可知小学校に平成11年につくら
れたクラブで、ごみ調査や芥子山登山、キャン
プのほか、学校全体に呼びかけて紙のリユース活
動が行われています。また、紙のリサイクル工
場に見学に行き、どんな小さな紙きれも資源に
なることを知り、リサイクル活動と連結。これ
からは家庭にも資源を大切にすること
を持ちを広げていきたいそうです。



自然観察ネットワーク(岡山市) 「昔と今の川との環境のちがいを」

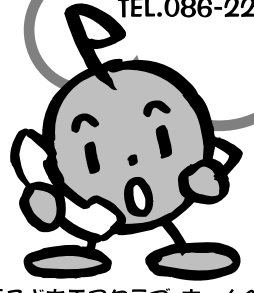
岡山市立富山小学校の子供たちと地域のサポ
ーターによるクラブで、川を中心に活動が行わ
れています。今の子供たちが大きくなった時、
昔の川よりよくなったと思ってもらいたい、と
考えたサポーターを中心に、川の環境を体験す
る中で、いろいろな活動を行っているそうです。



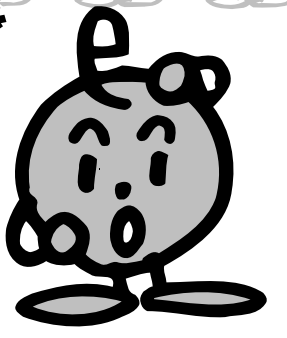
「子どもエコクラブを育てる会」で 活動を支援する(社)岡山東法人会

また、「子どもエコクラブを育てる会」の
(社)岡山東法人会を訪ね、宗岡喜之さんにお
話を伺いました。「法人会は税の協力団体で、
税金の勉強会など地域社会への貢献を行って
いる団体です。平成7年に環境庁の呼びかけで
スタートした『子どもエコクラブ』を支援しよう
ということで、平成8年は全国法人会総連合か
ら資金援助を受け、以降、(社)岡山東法人会
が岡山県内の子どもエコクラブの活動を支援し
てきました。そして、平成11年4月に、こ
もエコクラブを育てる会」を設立。趣旨に賛同
される方から1口1,000円で会費を募り、
資金的な援助を行うなど各種支援を行っていま
す。」とのこと。子どもエコクラブの活動は、
いろいろな方々の支えのもとで成り立っている
ことが分かりました。

子どもエコクラブに入りませんが
詳しいお問合せ
岡山県環境調整課企画班 榎尾まで
TEL.086-226-7297



「エコまる」は
「子どもエコクラブ」の
イメージキャラクターです。



「こどもエコクラブ」では、クラブメンバーと全国事務局の間に立ち、活動をより地域に根ざしたものと機能させるために、市町村役場の担当者がコーディネーターとしての役割を果たしています。岡山市保健福祉局保健部環境保全課環境調整室の友延栄一さんと井木亜維子さんにお話を伺いました。

コーディネーターとつながる 岡山市環境保全課

「紙のリサイクル工場での紙の選別を体験したことが印象に残った。大変だなあと考えた。」など、いろいろな楽しい思い出とともに環境活動が行われた様子を伝えてくれました。お母さんたちに感想をお伺いすると、「自分で興味を持ってやり始めたので、これからは続けてほしい。」「親も勉強になる。」「環境問題に興味を持ってきてくれたらいい。子供の自主性が育つていこうと思う。これからは自発的な活動ができるようサポーターとしてどのような活動ができるかが課題です。」と答えていました。

都築教諭は、「大人は必要な時に手助けをするだけ。子どもが自分で体験しながら環境や自然について学んでいってくれたら、大きくなってこの思いは残っていくことでしょう。」「と言われ、お母さん方がいるいるな形で支えてくださることも感謝しておられました。



サポーターのお母さん方からの提案で紙のリサイクル工場を見学。紙の選別を体験しました。

日本のタンポポと帰化タンポポの分布の様子を、大きなマップで色別に見ることができるかべ新聞。

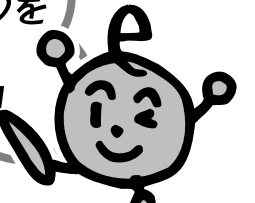


「こどもエコクラブINおかやま」活動発表会で、ほかのクラブのメンバーと交流。取材に対し、説明をします。



(写真提供:小島辰三さん)
タンポポの見分け方は、花を裏返して緑の部分(総包)を見る。そり反っているのが帰化タンポポです。
日本タンポポ(カンサイタンポポ、シロバナタンポポ)
帰化タンポポ(アカミタンポポ、セイヨウタンポポ)

こどもエコクラブをもっと詳しく
ご紹介します!



岡山市の「身近な環境調査」も兼ねて タンポポの継続調査をする「桃丘小学校」

岡山市立桃丘小学校(全校児童数404名、長尾尚志校長)を訪ね、「桃丘小学校こどもエコクラブ」のサポーターである鳥居恭治教諭からお話を伺いました。

「桃丘小学校は、芳賀佐山団地にあり、創立10年になる学校です。この学区は、約20年前に造成された佐山地区と清水白桃の産地として有名な芳賀地区から成り、新しい地区と昔からの地区が共存しているのが特徴です。3年前に、科学クラブの有志15人がクラブの会員となり、活動を始めました。岡山市環境保全課が行っている『身近な環境調査』と関連して、タンポポの調査を行ったり、水質調査を行ってききました。

平成11年度は、6年生3クラス全員がクラブに加入し、みんなでタンポポの調査を行い、分布を調べました。」と

「自然にふれる、身近な環境を守る、
可知小学校、可知自然エコクラブ」

「可知自然エコクラブ」は、全国477のこどもエコクラブが応募したかべ新聞コンクールで岡山県代表に選ばれ、全国大会に招待されました。その打合せでみんなが集まる日に可知小学校を訪ね、子どもたちやサポーターのお母さんたち、都築教諭からお話を伺いました。

平成11年4月、岡山市立可知小学校(全校児童数596名・戸井慶整校長)に、「可知自然エコクラブ」が設立され、3年生から6年生の19人がメンバーとなりました。「本物の自然にふれる活動」と「身近な環境を守る活動」の2つを大きなテーマとし、何をするか話し合

テーマに選んだのは、身近な植物であること、帰化タンポポは総包(花の下の緑の部分)がそり返っているのが日本のタンポポと区別がしやすいこと、6年生なら分布まで考えられるからおもしろい題材であったことを挙げられました。そして、何より鳥居先生ご自身が「身近な環境調査」検討会のメンバーでもあり、深く関わっていたらいいと思います。

「造成された新しい地区と自然がたくさん残っている地区を比べると、団地や道路沿いには帰化タンポポが多いことが分かります。また、4年目となる『身近な環境調査』のタンポポの分布では、以前の調査と比較することで環境の変化を知ることができます。街の中のタンポポはほとんど帰化タンポポで、単性生殖で繁殖力が強く、ほぼ一年中咲きます。日本のタンポポは農耕に合っており、年に何回か草刈りをするような日当たりのよい場所に生育します。継続的な調査で身近な環境がどう変わっているのかが知ることができます。」とおっしゃられています。

みんなで大きな分布マップを作って校内に貼り、全校で興味を持つことができたそうです。今後は、希少な種となっているダルマガエルの調査も行っていきたいとのことでした。

「行ってききました!」

「こどもエコクラブ
全国フェスティバル2000inながの」

後日、再び岡山市環境保全課を訪れ、3月25日・26日に長野県で行われた全国大会に参加された井木さんに、全国大会の様子をお伺いしました。

「雪が積もる寒い天候の中でしたが、オリ



「こどもエコクラブ全国フェスティバル2000inながの」の会場となった長野市のビッグハット。

こどもエコクラブ憲章

- 1 私たちは、生命を生み、育てくれる『水と緑の惑星・地球』を愛し、未来に引継ぎます。
- 2 私たちは、自分たちの暮らしや身のまわりの環境に関心を持ち、地球とともに生きていくための努力をします。
- 3 私たちは、世界中のなかまと、手をたずさえて、地球を守るために活動を続けます。

私たちは夢を忘れずに、夢を追い続けます。

「こどもエコクラブ」は、1999年のGLOBAL500賞(国連環境計画(UNEP)が、環境の保護や改善などに功績のあった個人や団体を表彰する国際的な賞)を受賞しました。

「『こどもエコクラブ』は、もともとは西宮市の環境保全活動として行われていた『アースウオッチングクラブ』や『身近な環境調査』が全国的に評価され、全国に広めるために今の形になったという経緯があります。今の環境や将来的な環境保全を考えると、ライフスタイルを変えていく必要があり、親を含めて地道にやっけていかなければなりません。学校教育の視点ではなく、環境からの視点で持続できる活動として環境庁が主唱して、平成7年に始まりました。予算もあまりありませんが、冊子などはさまざまな企業のパートナーシップにより作られています。岡山市では平成11年度は59クラブ、683人の会員がいます。」ということでした。

環境保全への早急な取り組みが求められた時代背景と、阪神大震災を契機としたボランティア活動への意識変化が、こどもエコクラブの活動の高まりに結びつき、全国へ、将来へと波及しているようです。

また、岡山市の「身近な環境調査」についてお聞きしました。「岡山市では、平成6年から身近な生き物の分布調査を通して身近な環境を見直してもらい、環境の変化に目を向けてもらおうと。『身近な環境調査』を行っています。調査の対象は、植物、鳥、昆虫、水生生物、けものなど156種にのびります。これからも、人と自然が共生するまちづくりをめざしており、継続して調査を行っていきます。」ということでした。

「犬島にキャンプに行ってきた。」「本のリユースで500冊集まり、400冊売

いながら、さまざまな活動が行われてきたそうです。自然にふれる活動では、芥子山や操山に登ったり、夏休みには犬島でキャンプ、「エコクラブinたまの」では渋川で他のクラブと交流を行いました。身近な環境を守る活動では、毎週、校内のゴミ調査を行って記録し、2学期にはゴミ減量作戦を開始。そして、全校各クラスに「リユースボックス」を設置し、裏面が白い紙を集め、クラスで使ってもらいました。3学期には紙のリサイクル工場を見学し、仕分け作業を体験しました。小さな紙も資源になると知り、各クラスに「カミボックス」を配布。リユースで両面とも使った紙を集め、リサイクル回収を行っているそうです。

子供たちに「こどもエコクラブ」に入ってきたことや印象に残った活動について聞きま

芥子山に春と秋の2回登山。季節の違いも体験しました。

本のリユースを呼びかけ、PTAのバザーでお店を出して売りました(売上げはPTAに寄付)。

20世紀を振り返って

ハイテク時代の到来を象徴する科学万博「つくば85」が、「人間・居住・環境と科学技術」をテーマに開催されたこの時代は、チェルノブイリ原子力発電所の事故が起こるなど、地球規模で環境と科学技術の調和を考える節目となりました。

この頃の日本は、対外純資産が世界第1位、円高ドル安により貿易黒字が最高記録を更新し続けましたが、海外でジャパン・バッシングが起こったり、地上げが社会問題化し始めました。また、国鉄の民営化やNTT、JTのスタートといった競争原理を導入した社会変革が進み、激動の時代を迎えることとなりました。

総理府の調査で、日本人の88.5%が自分の生活程度を「中」と考えていることが分かる一方、全国の湖沼などで生活雑排水による水質汚濁が問題となってきた時代でもありました。

資料・写真提供：山陽新聞社



1985年 昭和60年

架橋工事最盛期へ

着工8年目を迎えた瀬戸大橋は、海峡部、陸上部とともに工事が最盛期へ。海峡部では3つの長大吊り橋、2つの斜張橋の計10本の主塔が完成。吊り橋では命綱のメンケーブル架設、斜張橋では巨大な橋げたの取り付けが順調に進み、全体の工事進捗率は70%を超えた。陸上部でも道路ルートで早島インターが着工、鉄道ルートでも福南山トンネルが貫通した。(メンケーブル架設工事の空中作業足場 キャットウォーク)を照らす照明灯が点灯され、瀬戸内海に巨大なイルミネーションの名所が誕生)



1985年 昭和60年

「名水百選」に塩釜(真庭郡八束村)と雄町(岡山市)が選ばれる

全国のきれいな水を再発見し、水質安全と水辺の自然環境を保護することをねらいに、「名水百選」を選定している環境庁は、全国755件のわき水報告を基に、まず名水31カ所を選定。岡山県では「塩釜の冷泉」と「雄町の冷泉」が選ばれた。水質・水量、景観、親水性の観点から保全状況が良好 地域住民による保全活動を必要条件に、希少性、著名度、故事来歴などを参考に、「名水百選調査検討会」が判定した。第二次分の69カ所に岡山県の岩井(苫田郡上斎原村)が選ばれた。



1985年 昭和60年

勝山町勝山地区を町並み保存地区に指定

旭川の清流沿いに城下町として栄え、山陰と山陽を結ぶ出雲街道の要衝として歴史と伝統が息づく勝山地区が、岡山県の「町並み保存地区」第1号に指定された。小京都を思わせる風情豊かな白壁の街並みや、昭和の初めまで旭川を盛んに往来した高瀬舟の発着場跡などが、県の補助を得て5カ年計画で整備が進められる。湯原温泉や蒜山、大山への玄関口でもある勝山町では、観光客の足を町の中央に向けさせたいと期待は大きい。



ホテアオイの除去作業

1987年 昭和62年

児島湖浄化対策推進協議会が「児島湖浄化推進月間」を実施

昭和37年に児島湾締切り堤防が完成し、児島湖が誕生して以来、昭和57年には児島湖流域下水道浄化センターの建設工事が着手、昭和61年には「児島湖浄化対策推進本部」を設置するなどして水質安全への対策を講じてきました。しかし、大量の生活排水の流入で児島湖の汚染は悪化の一途。COD(化学的酸素要求量)が国の環境基準の2倍強にものぼり、さらに窒素やリンも環境基準を大きく超えて富栄養化が著しく進むなど深刻化しました(60年度版岡山市公害白書)。そのため県では、昭和62年1月、全国で初めて湖沼法(湖沼水質保全特別措置法)が適用された水質保全計画により、5カ年計画で児島湖流域の下水道整備や底泥しゅんせつ、住民意識の向上など総合的な浄化対策に本格的に取り組むことになりました。8月には児島湖浄化推進月間を実施。児島湖浄化対策推進協議会が「児島湖浄化推進展」を開催するなど、全国の湖沼の中でワースト5位となった児島湖の汚れに対し、流域住民の水質浄化意識を高めました。



1986年 昭和61年

人形峠アトムサイエンス館が開館

岡山県が苫田郡上斎原村の動力炉・核燃料開発事業団(動燃)人形峠事業所正門前に建設していた「人形峠アトムサイエンス館」の開館式が行われた。



1986年 昭和61年

倉敷市下津井地区を町並み保存地区に指定

岡山県は下津井地区を本年度の「町並み保存地区」に指定。下津井地区は、内海航路の北前船、四国への渡海場などとしてにぎわい、今でも江戸時代の商家、ニシン蔵など昔の面影をとどめる建物が多く残存している。倉敷市は5カ年計画で県の補助を受けながら、景観の保存、整備を図り、瀬戸大橋の架橋で予想される観光客増に備える。



児島湖浄化推進展会場でフナなどを放す子供たち

写真は湖水の汚濁状況を視察する児島湖浄化推進岡山市議会懇談会のメンバーたち



1986年 昭和61年

児島湖浄化対策推進協議会が発足

岡山県、県議会、流域8市町村など行政側と、湖水利用団体、農林業、青年、婦人、労働団体など39の民間団体が構成された児島湖浄化対策推進協議会の設立総会が開かれ、家庭排水対策を中心とした水質浄化活動に力を入れていくことなどを申し合わせた。



1987年 昭和62年

岡山城跡と後楽園が国の史跡指定に
岡山城跡と後楽園合わせて17万6880㎡の区域が国の史跡に指定された。

この時代の主な出来事

日本及び世界の出来事	西暦/年号	環境に関する出来事
宇宙科学研が日本初の人工惑星「さきがけ」を打ち上げる 東北・上越新幹線の上野・大宮間が開業する 筑波研究学園都市で科学万博「つくば'85」が開幕 本州と北海道を結ぶ青函トンネルの本杭(総延長53.85km)が貫通 エイズが世界的に流行。厚生省が日本人のエイズ患者第1号を認定する NTTとJTの民営化スタート 男女雇用機会均等法が成立する 日本が初めて世界最大の工業品輸出国となる 本四連絡橋・神戸・鳴門ルートのうち、淡路島と鳴門市を結ぶ大鳴門橋が開通する 日本人の平均寿命は男性74.54歳 女性は80.18歳で世界最高となる 日航ジャンボ機が御巣高山に墜落する 520人死、4人が奇跡の生還 米国防総省が新型偵察衛星を搭載した初の軍用シャトル「ディスカバリー」を打ち上げる ソ連・ゴルバチョフ書記長就任 国際学術連合会議が「核の冬」で世界は破滅との報告書を出す メキシコ大地震で全土の3分の1が被災 コロンビアで火山噴火にもともなう融雪により大規模な地滑りと洪水が発生 死者2万5000人の火山災害となる	1985年(昭和60年)	環境庁の名水百選に塩釜(八束村)と雄町の冷泉(岡山市)が選ばれる 名水百選に岩井(上斎原村)が追加選定される 岡山県が騒音に係る環境基準のあてはめを開始 岡山県環境保健センターの大気汚染監視テレメータシステムを更新し、大気汚染監視体制を強化 県下の緑の少年隊の連携を深めるため、岡山県緑の少年隊連絡協議会を設立 岡山県鷲羽山ビジターセンターが完成 岡山県が町並み保存地区整備事業を開始 勝山町勝山地区を町並み保存地区に指定 児島湖が湖沼水質保全特別措置法に基づく指定湖沼に指定される オゾン層の保護に関するウィーン条約を採択 水質汚濁防止法施行令が一部改正され、窒素、リンが規制される
ハレー彗星が76年ぶりに大接近。 ソ連のハレー彗星探知機「ベガ1号」が彗星の核の近接撮影に初めて成功 日本の貿易黒字が3年連続史上最高 第12回主要先進国首脳会議「東京サミット」が開かれる 東北自動車道開通。浦和と青森が674kmの自動車道で直結 伊豆大島の三原山が209年ぶりに噴火。溶岩が町に迫り全島民1万人が島外に脱出 三井物産マニラ支店長誘拐される。 137日後に無事救出 このころ地上げが社会問題化 米のスベースシャトル「チャレンジャー」が打ち上げ72秒後に爆発。乗組員7人全員死亡 フィリピンにアキノ新政権が発足。 マルコス独裁体制崩壊 ソ連ウクライナ共和国のチェルノブイリ原発で爆発事故地球規模の放射能汚染にイギリスのチャールズ皇太子とダイアナ妃が来日 アフリカのカメルーンで河口湖から有毒ガス噴出。住民1500人以上が死亡 ソウル・アジア競技大会開催 スイスの化学工場で火災。ライン川が有毒物質で汚染される 米の実験機「ボイジャー」が初の無給油無着陸で世界一周旅行に成功	1986年(昭和61年)	岡山県が騒音規制法、振動規制法、悪臭規制法に基づく、それぞれの規制地域及び規制基準を設定 農地利用の基本的指針となる国土利用計画(岡山県計画)を策定 リン及びその化合物に係る削減指導方針(第2期)を策定 児島湖浄化対策本部を設置 人形峠アトムサイエンス館が開館 岡山県児島湖浄化対策推進協議会が発足 倉敷市下津井地区を町並み保存地区に指定 中央公害対策審議会が環境庁長官に、大気汚染指定地域を全面解除し、今後新たな患者の認定は行わないなどの答申を提出する 気象庁がペルー沖に異常気象を起こすエル・ニーニョ発生を発表
捕鯨王国の歴史に幕。南極海の日本船団が制限頭数の捕鯨を終え、最後の航海を終える 国鉄の分割・民営化でJR11法人と国鉄清算事業団が発足 昭和天皇が膵の障害で入院。手術を受ける ココム(対共産圏輸出統制委員会)違反の東芝機械に、共産圏向けの輸出1年間禁止の行政処分 ジャパン・バッシングが米国内で強まる ニューヨーク株式市場で株価が暴落(暗黒の月曜日) 大韓航空機が消息を絶つ レーガンとゴルバチョフの米ソ首脳会談、INF(中距離核戦力)全廃条約に調印 利根川進博士へのノーベル医学・生理学賞授与が発表される	1987年(昭和62年)	波川海岸(玉野市)が白砂青松百選に選定される 岡山県が「児島湖に係る湖沼水質保全計画(第1期)を策定 岡山城跡と後楽園が国の史跡に指定される 岡山県がCOD総量削減計画(第2期)を策定 児島湖浄化対策推進協議会が「児島湖浄化推進月間」を実施 高梁市の「美観地区道路」が日本の道百選に選定される 岡山県大原町古町地区を町並み保存地区に指定 瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画の一部を変更 絶滅するおそれのある野生動植物の譲渡の規制等に関する法律を制定 オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書を採択 熊本地裁が水俣病第3次訴訟で、初めて国と県の責任を認める判決を出す
		大原町古町地区を町並み保存地区に指定 播州と因幡を結ぶ因幡往來の宿場町として栄え、宮本武蔵の生誕地でもある大原町古町。本陣・脇本陣の閑静なたたずまい、なまこ壁の土蔵や格子戸を備えた情緒たっぷりの家屋など往時の姿をとどめる古い家並みが「町並み保存地区」に指定された。



1987年 昭和62年

大原町古町地区を町並み保存地区に指定

播州と因幡を結ぶ因幡往來の宿場町として栄え、宮本武蔵の生誕地でもある大原町古町。本陣・脇本陣の閑静なたたずまい、なまこ壁の土蔵や格子戸を備えた情緒たっぷりの家屋など往時の姿をとどめる古い家並みが「町並み保存地区」に指定された。

基本方針

わが国の経済情勢は、政府による大規模な経済対策の効果により緩やかながら回復基調が続いているものの、依然として低迷している個人消費や雇用情勢の不安等から、今だ回復軌道に乗ったという確信が持てない状況にあります。このため、昨年11月に新規需要の創造、産業構造改革の推進を目的とした「経済新生対策」が採択されましたが、しばらくは足踏状態が続くものと思われま

す。一方、環境問題は、温暖化防止対策、オゾン層の破壊等、地球レベルで議論が行われているものから、身近なところでは、容器包装リサイクル法や家電リサイクル法の制定により、再生資源の利用などリサイクルの促進に様々な対策が講じられ、循環型社会の構築が進められております。また、生活環境に配慮してダイオキシン類対策特別措置法が1月から施行されており、環境への負荷の低減、改善をさらに一層推し進める必要があります。

このような中、当事業団としましては、昨年4月に水島処分場の延命化と安定化及び熱エネルギーの有効利用を目的とした焼却施設「水島クリーンセンター」の操業を開始し順調に稼働しております。また、社会や時代のニーズに対応するため、新処分場（泊地）建設の早期着工及び減量化・資源化施設の整備の検討にも積極的に取り組むとともに、引き続き産業廃棄物の適正処理、公共施設の緑化、各種環境調査及び環境保全サービス事業の推進等環境保全のための各種事業を実施し、快適な地域社会実現に貢献するものいたします。

事業実施計画

1. 廃棄物処理処分事業

地域環境の保全と県内産業の発展に寄与するため、県内における産業廃棄物の処理処分の需要に対し、適切な処理処分に努めるとともに生活環境の保全に関連する事業の拡大に努める。

(1) 産業廃棄物の最終処分事業

ア. 産業廃棄物埋立処分

事業所から排出される産業廃棄物を受入れ水島処分場へ埋立処分する。同処分場は、平成15年4月に埋立期限が到来するため、その間の残容量を考慮し、本年度から受入制限を実施する。また、当面、処分場の埋立容量を確保するための対策を検討する。

・計画目標 20万トン

イ. 新処分場の建設

現在の水島処分場は、平成14年度中には埋立が完了するものと予測されるため、県との協調体制のもとに新処分場（東側泊地）の建設計画を進める。また、公共関与の産業廃棄物最終処分場の建設については、県の動向をみながら事業の推進を図る。

・事業団最終処分場（東側泊地）

昨年度は、新規に制定された岡山県新アセス条例に基づき環境影響評価及び関係機関と協議しながら埋立申請を合む各種図書の作成を行った。また、建設に向けて詳細設計を行うとともに、漁業関係者への事業説明を実施した。

本年度は、昨年度に引き続き建設に向けて詳細設計及び公告縦覧等を含む環境影響評価書の作成を完成させ、直ちに埋立免許申請、施設設置許可申請書等の各種法手続きに着手するとともに、漁業関係者に対する影響補償の協議を継続する予定である。

また、県による公共関与と処分場の建設計画に対して、全面的に協力する。

(2) 産業廃棄物中間処理事業

下水汚泥等焼却事業(水島クリーンセンター)

平成11年4月から操業を開始し、環境保全に十分留意し適正な運転管理を行っている。

岡山県下水道公社、岡山市、倉敷市等16団体の下水道から発生する下水汚泥及び事業所から発生する廃プラスチック類を混合して焼却し、廃棄物の減量化及び安定化を図る。

なお、効率的な運転及び処理量の増大見込により、土日連続運転についての検討を行う。

・計画目標 63,000トン
下水汚泥 50,000トン
廃プラスチック類 13,000トン

(3) 公共建設残土センター管理運営事業

県が建設した建設残土センターの管理運営を受託し、平成11年度は10ヵ所について事業化を図り、県との協調体制のもとに適切な管理運営を行っている。平成12年度は新たに1ヵ所事業開始し、1ヵ所が完了する予定である。

・計画目標 180,000m³

(4) 資源化物選別施設管理運営事業

倉敷市が建設した倉敷市資源選別所の施設管理運営を平成8年度から受託し、平成9年度からは、市の要請を受け選別作業業務の一部を「倉敷市手をつなぐ育成会」へ再委託し実施している。平成12年度も引き続き、施設の管理運営を受託し、資源の有効利用及び生活環境の保全に努める。

(5) 廃棄物の新処理施設の検討

多様化する産業廃棄物の処理に対応するため、新処理技術を用いた中間処理施設の調査検討を行う。

2. 緑化事業

豊かな緑の保全・創造を目指し、次の事業を実施する。

(1) 緑化工事設計施工監督事業

道路・公園・学校等公共施設の緑化事業を中心に受託実施する。

・計画目標 15件

(2) 道路緑地等維持管理事業

国道・県道の街路樹及び公共緑地等の維持管理を受託実施する。

・計画目標 延べ121路線他13ヵ所

3. 環境調査事業

行政機関や民間事業所等からの各種環境試料の分析測定、環境アセスメント及び環境監視測定局の保守管理等の需要に的確かつ迅速に対応するとともに、一層の技術水準の向上や効率的業務実施を図る。

(1) 環境計量証明事業

水質、土壌、底質、産業廃棄物、環境大気及び排ガス等についての分析測定を受託実施する。本年度は、「ダイオキシン類対策特別措置法」の施行に伴い測定分析業務の増大が予想されることから、実施体制の強化とともに一層の精度管理の徹底を図る。

(2) 環境アセスメント事業

昨年施行された環境影響評価法（アセス法）

に迅速な対応を図るとともに、生活環境及び自然環境等に係る各種環境調査を積極的に受託実施する。

(3) 環境監視測定局保守管理事業

岡山県、岡山市、玉野市、備前市及び笠岡市が設置管理する大気測定局の保守管理業務を引き続き受託実施するとともに、新規の保守管理業務も積極的に受託する。

4. 環境保全サービス事業

県及び関係機関との密接な連携のもとに、環境保全に関する各種事業を積極的に行う。

(1) 環境思想高揚運動

環境思想の高揚を図るため次の事業を実施する。

ア. 「環境」の発行

イ. 環境月間(6月)・地球温暖化防止月間(12月)行事への共催

ウ. 花いっぱい運動への協賛

エ. 環境資料の収集・相談業務

オ. その他

(2) 公共緑化推進事業

公共施設、公園、街路等の緑化事業を実施する。

(3) 水質保全推進事業

児島湖流域浄化推進事業等水質保全に関する各種事業を実施する。

ア. 生活排水対策事業への協力(クリーンネットの配布、啓発テレビスポットの実施)

イ. 児島湖流域環境保全推進月間行事への共催

ウ. 身近な川の健康診断への助成

(4) 自然保護推進事業

自然環境の保護・保全に関する各種事業を実施する。

ア. 緑の募金への協力

イ. 緑化推進大会への協賛

ウ. 緑の少年隊活動への協賛

(5) 大気保全推進事業

大気環境保全に関する各種事業を実施する。

ア. 光化学オキシダント対策事業(ラジオスポット)の実施

イ. 樹木の大气浄化能力度チェック事業への助成

ウ. 星空観察事業への助成

(6) 廃棄物対策推進事業

ア. リサイクル推進大会への共催

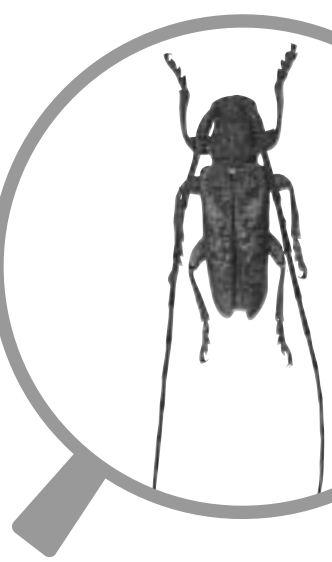
イ. その他

平成12年度 事業計画

(財)岡山県環境保全事業団の平成12年度事業計画が第57回定例理事会において審議承認されました。

INFORMATION

【岡山の昆虫】 ヒメビロウドカミキリ



No.87

環境庁編、通称レッドデータブックに希少種として記載され、絶滅のおそれのある種として注目されている。

樹木依存種が大多数を占めるカミキリシ科の中で、数少ない生きた草の茎や根を食べて育つ典型的な「草食い」の一種に属する。そのため、草原の減少傾向が強いわが国の現状の中で、次々と生息地が消滅し、ますます希少性を増しつつあると思われる。

成虫の体長は8.5〜12ミリと草食いであるだけにあまり大きくない。体は頑丈で、雄の触角は体長のほぼ2倍の長さがある。さやばねは赤褐色の地に不明瞭な白斑を浮かせている。

新潟・関東以西の本州、九州、対馬、朝鮮半島、中国に分布。

岡山県下では、中国山地のごく限られた地域でのわずかな生息確認があるのみで、極めてまれな存在である。

成虫の出現期は、6、7月ごろ。夜間灯火に飛来するほか、オトコヨモギに集まることや、幼虫が寄生した根がコブ状に肥大することなどが知られている。
(青野孝昭)

岡山の自然に親しみませんか？大切にしよう！

あなたも参加してみませんか！

まさに薫風という言葉がぴったりこの季節。新緑の透き通った風には、何だか元気が出るようなフレッシュな香りを感じます。そんなさわやかな季節、自然を楽しんだり、体を動かしたりしませんか。県内には左で紹介しているもの他にも、いろいろなイベントが待っています。これから花の美しい季節を迎えます。サツキ、ツツジ、菖蒲、紫陽花、ラベンダー、すすらなど県内には花の名所がたくさんあります。咲き誇る花に囲まれてのんびり過ごしてみたいかがでしょうか。

イベントのご案内

5月28日(日)
第12回土用ダム新緑マラソン大会
土用ダム湖畔周回道路(新庄村)
4.5km、9kmのコースがあり、制限時間(1時間)内に参加できる人ならどなたでも参加可能。新緑の土用ダム周囲のブナの自然林、天然杉は最高の眺め。参加者には郷土特産品の参加賞あり。完走者全員に完走証。申込み必要。詳しくはお問い合わせください。
お問い合わせ
新庄村教育委員会 0867-56-3178

6月上旬~30日(金)頃まで
ラベンダーまつり「花人の集い」
大日高原ハーブガーデン(大佐町)
2万3,000株のラベンダーが咲き乱れる。刈り取り体験(有料)ができる。
お問い合わせ
風コーポレーション 0867-98-3701

6月24日(土)
第3回渋川海岸清掃ロボットコンテスト
渋川海岸・渋川ビジターハウス(玉野市)
県下の中高生が渋川海岸を清掃(空き缶回収)するロボットを持ち寄り、その制作技術・競技を通して、環境を学ぶ。海開きの日に合わせて行われるイベントで、第3回となる今回から中学生の部と高校生に部に分かれ、それぞれの課題にチャレンジする。
お問い合わせ
岡山商科大学附属高等学校内機械科
086-252-3407

6月4日(日)
蜂蜜採取会
たけべの森(建部町)
たけべの森のそよごの木に設置された蜜蜂の巣を集め、蜂蜜の採取を体験。
6月11日(日)~8月上旬
「たけべの森」かぶとむしどーむ
たけべの森(建部町)
かぶとむしどーむの中では、かぶと虫の飼育、観察、捕獲の体験ができる。入場料300円。

6月18日(日)~7月9日(日)
紫陽花撮影コンテスト
たけべの森(建部町)
入口沿道3.5kmに咲く、3,500本の紫陽花を写真撮影し、応募する。締切り7月16日
お問い合わせすべて
吉備高原建部家族旅行村たけべの森
0867-22-3111

6月23日(金)~25日(日)
中・四国環境教育ミーティング2000
岡山市立中央公民館
中四国地区の環境教育や環境保全、自然保護などに関心のある個人・団体・企業・行政などとの交流、情報やノウハウを交換するための交流会を開催。
内容: ゲストトーク、7つの分科会(環境内: パートナーシップ、食と農、環境と交通、総合的学習、体験学習、後援会、自然学校)、交流懇親会など
定員: 150名(6月9日締め切り)
参加費: 一般18,000円
学生15,000円(宿泊は別途)
お問い合わせ・お申込み
中四国環境教育ミーティング事務局
086-256-0331

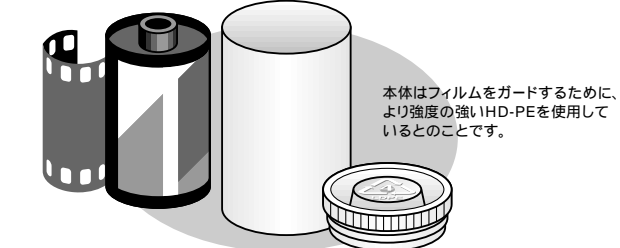
自然調査のススメ

No. その4



水温む季節となりました。田んぼのミゾや水たまりにはアカガエル達の卵塊が見られ、空にはツバメが飛び交っています。スミレやタンポポも蕾が膨らみはじめ、いよいよ春本番です。こんな季節には外出かけ、写真を撮る機会も増えてくることと思います。

ところで、写真のフィルムが入っている白い容器、皆さんどうしていますか。この容器、大変燃え難く、科学的にも強い素材で出来ています。ですから、燃えるゴミに出すのはお薦めできません。また、フィルムを守るために、気密性が高く、フタを閉めれば湿気を通しません。逆に言えば、中に水を入れても漏れない容器なんです。これを捨てるのはもったいない。私たちは、水生昆虫や小さな生き物を入れる標本入れとして、このフィルムケース(正式にはビークースというのですが)を活用しています。小さくて丈夫な容器なので、ポケットに入れていても潰れるようなことはありませんし、70%程度に薄めたアルコール溶液を入れておけば、調査現場でアルコール標本を作れることもできます。標本の瓶も売ってはいませんが、結構値段がはりますし、フィルムケースの方が割れたりする心配



- 本体** ▶ **HDPE** 高密度ポリエチレン
低圧法ポリエチレン(LD-PE)を使用しているもので、主として洗剤ボトルなどに多く採用されています。
用途: レジ袋、バケツ、洗面器、灯油缶、弁当箱など
- ふた** ▶ **LDPE** 低密度ポリエチレン
高圧法ポリエチレン(LD-PE)を使用しているもので、主に辛子などのボトルや蜂蜜のボトルなどに多く採用されています。
用途: ラップフィルム、農業用シート、ポリ袋など

がないので使い勝手が良いのです。フィルムケースに入れるのは生き物ばかりではありません。キャンプに行くときにお茶の葉っぱや、塩、砂糖を入れておくのにも便利です。密封できるので、湿ることがありませんし、蓋があいて散らかることも少ないです。私は使い捨てのカッターの刃を入れるのにも使っています。丈夫な容器なので誤って手を傷つけることもありません。

この便利な容器を沢山手に入れようとおもったら、カメラ屋さんやカメラ屋さんに聞いてみるのが手取り早い方法です。現像の時に持ち込まれ、カメラ屋さんも処分しているかもしれないから(大きな現像所ではフィルムメーカーが回収しているところもあるそうですが、大抵は産業廃棄物として処分されています)、ひよっとしたら分けてもらえるかもしれませんよ。

(環境調査部 大坪尚広)

編集後記

今回の号より表紙写真が新シリーズになりました。テーマは「自然の中の幾何学模様」。ふと自然に目をやると、そこには偶然性や必然性から生まれた美しいパターンが、生活の中に息づいています。皆さんも自然の美を探しに出かけてみてはいかがでしょうか。

表紙のコメント

自然の中の幾何学模様
美作町海田(かいた)の茶畑
県内最大のお茶の産地、海田地区には、江戸時代からの栽培の歴史を伝える手摘みならでの風景が今も残されている。機械による摘み採りが行われてきたこの茶畑は、人の道路と人の手の届く範囲のお茶の木が点在し、不規則な自然の造形美を生み出している。

発行日/平成12年4月30日
発行所/財団法人 岡山県環境保全事業団
OKAYAMA
〒701-0212 岡山市内尾665-1
TEL.086-298-2122(代)
FAX.086-298-2496